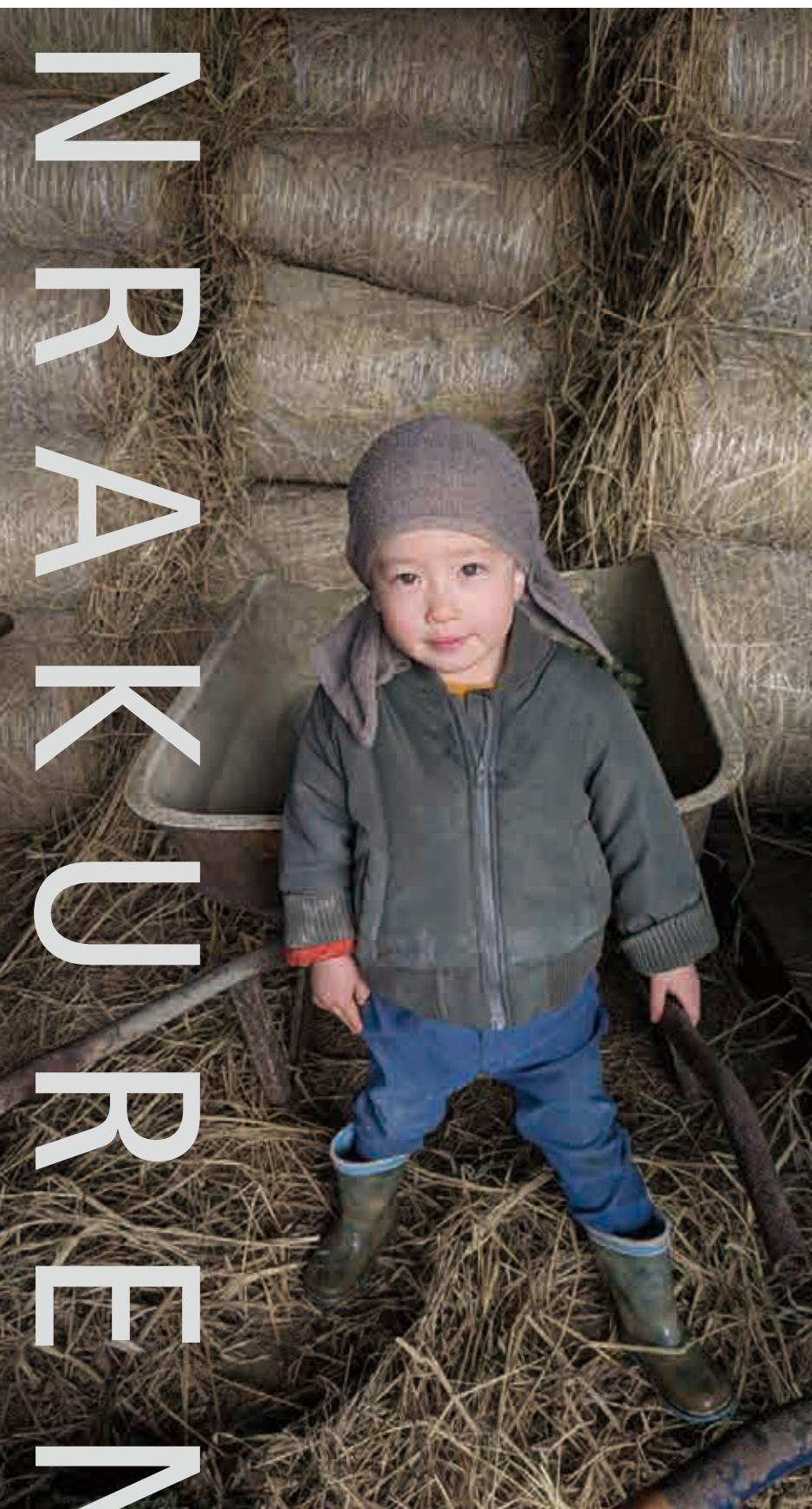


ZENRAKUREN 全酪連会報 1

2026 JAN No.724



新年のご挨拶
代表理事会長 隈部洋
農林水産省畜産局長 長井俊彦

酪農とのかけはし／
NTTドコモビジネス株式会社 九州支社
第二ソリューション&マーケティング営業部門
第三グループ・第二チーム
吉益 朝香さん

令和7年度
全酪連・全国酪農協会会員職員研修会

酪農業に対する理解醸成活動報告②

日本酪農見て歩紀／
臼田牧舎株式会社
(岐阜県加茂郡坂祝町)

酪農トピックス／
「ミルクフェスin豊洲」にて、
全酪連ブースを出展いたしました(酪農部)ほか

水際対策で家畜伝染病予防を!④

酪政連活動報告

全酪新報ダイジェスト版

全酪連ギフト商品について

全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

隈部 洋



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃より弊会事業に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和8年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国の酪農情勢を振り返りますと、8月にはコロナ禍以降3度目となる乳価値上げが行われ、経営改善に向けた明るい兆しが見られました。生産資材やエネルギー価格は

依然として高止まりしているものの、酪農現場では生産性向上や効率化への取組が着実に進み、持続的な酪農生産に向けた前向きな歩みが続いた一年でもありました。

4月には「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」が策定され、長命連産や国産飼料の利用拡大、牛乳・乳製品の需要拡大など、生産者や関係者が誇りをもち、若い世代にとっても魅力ある畜産業の実現に向けた方向性が示されました。食料安全保障や酪農の多面的機能の観点からも、持続的な酪農生産基盤の構築に向け、生乳生産に意欲をもった取り組みの環境づくりが業界全体に求められております。

国産牛乳・乳製品の需要拡大活動においては「牛乳でスマイルプロジェクト」のもと、酪農青年女性会議の活動として「父の日に牛乳^{ちち}を贈ろう」キャンペーンや新宿駅西口をはじめとした全国各地での理解醸成活動を行い、全国農協乳業協会と連携した「高校牛乳自販機導入プロジェクト」では特別授業を開催しております。酪農乳業8団体の取組が「点から線、線から面」へと広がり、牛乳・乳製品の消費につなげるべく、一丸となって取り組んでまいります。

また弊会は、全国農業協同組合連合会、東北生乳販売農業協同組合連合会、関東生乳販売農業協同組合連合会との共同出資により、昨年10月に「らくのう乳業株式会社」を設立し、令和10年度の工場稼働を目指して準備を進めております。同社および出資者と連携し、生乳の需給調整機能を十分に発揮することで、年間を通じた安定的な生産環境の構築に取り組み、将来にわたり酪農生産基盤を力強く支えてまいります。

(一社) 全酪アカデミーにおいては、新規就農を目指して研修を重ねてきた研修生が、鹿児島県にて令和8年1月1日より生乳出荷を開始します。厳しい酪農環境の中であっても、夢と志を持ち酪農の道へ踏み出す若い世代が仲間として加わることは大きな喜びであり、私たちにとっても大きな励みとなるものであります。また(一社)酪農ヘルパー全国協会、シャ

インコースト株式会社などと連携し、親元就農養成コース、ハーズマン(牧場管理責任者)養成コース、酪農ヘルパー養成コースの設立へ向け始動しました。今後も賛助会員および特別会員とともに酪農生産基盤の維持に貢献してまいります。

さらに本年4月には、福島県浪江町の「Shine Coast Farm」(復興牧場)がシャインコースト株式会社の運営により稼働を開始する予定です。弊会は、同社および福島県酪農業協同組合とともに、同地域の酪農生産基盤の再生と発展に向けて引き続き尽力してまいります。

本年は3ヶ年の事業方針である第十三次中期事業計画の最終年度にあたります。「全酪連将来ビジョン」の基本姿勢として掲げる「持続的な酪農生産基盤の構築」のもと、「販売事業の強化」「業務効率化」を柱に事業を進めてまいりました。総括の年として、「NEXT STAGE 全酪」を合言葉に次期中期事業計画へ繋がられるよう計画を着実に実行し、わが国の酪農が直面する諸課題に引き続き対応してまいります。今後とも会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力する所存です。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和8年頭所感

農林水産省畜産局長

長井 俊彦



明けましておめでとうござい
ます。

令和8年を迎えるにあたり、一言、
御挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素か
ら酪農乳業行政施策の推進に御理
解と御協力を賜り、厚く御礼申し
上げます。

ここ数年、地政学的リスクや気
候変動等の影響による食料安全保
障上の懸念が継続する中、資材・エ
ネルギー価格の高止まりや物流課
題などが、我が国の酪農・乳業界

に厳しい影響を及ぼしてきました。

一方、訪日外国人観光客数の増加が
消費を下支えし、乳製品を含む国
産農畜産物への関心も高まるなど、
明るい兆しも見られてきました。

そのような中で、昨年4月には「酪
農及び肉用牛生産の近代化を図る
ための基本方針（酪肉近）」が策定
され、我が国の酪農乳業の中長期的
な計画が定められました。このいわ
ゆる酪肉近にも「生産者が所得を
向上させながら安心して生産して
いけるよう需給ギャップを解消しつ

つ、更なる国内需要の拡大のための
取組が重要である。」と明記されてい
るように、酪農・乳業界が一体となり
業界全体で中長期的な視点を持ち
つつ、課題を二つずつ乗り越えていく
必要があると考えております。

最近の需給に目を向けますと、
供給面では累次の乳価の引上げが
実現されたものの、生産資材高騰
傾向などによって依然として難しい
経営環境にあるものと認識をして
おります。一方で需要面においては、
脱脂粉乳の需給は一定の改善が見ら

れるものの、何ら対策を講じなけれ
ば依然として在庫が積み上がってし
まう状況は変わっておらず、乳業・
酪農の持続的な発展にとって、引き
続き課題となっています。

この脱脂粉乳在庫については、こ
れまで、全国の生産者・乳業で協
調をして、この在庫を減らし、乳価
引上げという成果に繋げてきまし
た。農林水産省としても、この取組
を支え続けていくために、昨年から
この全国協調の取組への参加を主な
補助事業の要件とする、いわゆる

クロス・コンプライアンスを開始いたしました。引き続きの皆様のご理解と御協力をお願いいたします。

農林水産省としても、令和7年度補正予算において、需給改善のための支援として、引き続き、脱脂粉乳在庫対策を措置するとともに、国産チーズの競争力強化対策や、牛乳乳製品の新商品開発等の消費拡大対策、輸出拡大に向けた対策を措置したところです。

牛乳乳製品の消費拡大対策については、Jミルクを中心として業界が一体となって「牛乳でスマイルプロジェクト」に基づく消費拡大の取組を加速させてまいります。

引き続き、農林水産省においても業界の皆様とともにこれらの取組を適切に実施し、今後の需要の拡大や需給の安定に努めてまいります。

さらに、国産牛乳乳製品の需要の拡大という点において、少子高齢

化等により国内の食のマーケットの縮小が見込まれる中、成長が期待される海外市場を積極的に開拓していくことは極めて重要と考えております。

政府においては、農林水産物・食品の輸出拡大のために「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」を策定し、牛乳乳製品を重点品目の一つに位置づけております。昨年

5月に改訂された実行戦略においては、牛乳乳製品の2030年輸出額目標を883億円と意欲的に設定したところです。これまで牛乳乳製品の輸出額は堅調に増加傾向で推移しており、令和4年から3年連続で300億円を超えております。

農林水産省では引き続き輸出額目標の達成に向け、オールジャパンでのプロモーション等の取組や、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」による一貫した輸出促進の支援、輸出

先国が求める水準を満たす乳業施設の整備への支援等を通じ、更なる輸出拡大を推進してまいります。

また、近年、夏季の記録的猛暑による生乳生産量の低下や受胎率低下に起因する分娩のズレにより、需要期の生産が減少し、不需要期に生産が増加する等の課題が深刻化しています。需要に応じた生産を促すとともに、酪農の生産性を改善させるために、夏を迎える前の早期の備えが必要です。暑熱対策用の資機材の導入や、夏季における人工授精から受精卵移植（和牛受精卵除く）に転換する取組等を支援することとしており、現場の取組を支えてまいります。

さらに本年は、農業構造転換集中対策の2年目を迎え、酪農においても、乳製品加工基幹施設等の整備による需給調整の高度化や輸出拡大を進めるとともに、国際情勢に左右されにくい足腰の強い酪農への転換

を更に進めていく必要があります。加えて、畜産クラスター事業については、令和7年度補正予算より安定的な経営を推進するため自給飼料基盤を有することを要件として、搾乳牛舎の整備支援を再開するほか、収益性の向上のみならず、経営の持続性にも着目した新たな支援メニューを措置することとしています。具体的には、国産飼料の生産・利用の拡大や家畜衛生の高度化、野生鳥獣害防止対策などの取組を一層進め、多様な畜産・酪農経営の維持・発展を図ってまいります。

最後になりますが、本年は、新たな酪肉近の理念を着実に進展させるための重要な1年であり、皆様におかれましては、昨年にも増して、酪農乳業行政への格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

との農酪 かけはし



NTTドコモビジネス株式会社 九州支社
第二ソリューション&マーケティング営業部門
第三グループ・第二チーム
よします あさか
吉益 朝香さん

第59回

アグリガール ドコまでモ

つながる。驚きを。幸せを。

docomo Business

NTTドコモビジネス株式会社
九州支社

住所：福岡県福岡市中央区渡辺通2-6-1
西鉄薬院駅ビル13F

沿革

- 1952年 日本電信電話公社設立
- 1985年 日本電信電話株式会社(NTT)設立
- 1991年 NTT移動通信網(現、NTTドコモ)設立
- 1999年 NTTコミュニケーションズ、NTT東日本、NTT西日本設立
- 2022年 NTTドコモ配下に、NTTコミュニケーションズ、NTTコムウェアを集約
- 2025年 NTTコミュニケーションズがNTTドコモビジネスに社名変更



今回お話を伺ったのは、NTTドコモビジネス株式会社 九州支社第二ソリューション&マーケティング営業部門第三グループ・第二チーム よします あさか 吉益朝香さんです。



「スマート農業」という呼称のもと、情報通信技術を生産現場で活用することが農林水産省を中心に進められ

ています。農業分野で従来からビジネスを展開する企業のみならず、異業種でもコアビジネスで培った技術を農業分野に展開し生産性向上を支援しようとする企業まで、幅広い業種がスマート農業に参入してきています。

NTTドコモビジネス株式会社(以下、ドコモビジネス)もそんな企業の一つ。同社の名前からは携帯電話を連想しますが、スマート農業の分野でも取組を進めています。ドコモビジネスは、コアビジネスである通信事業領域を核として無線ネットワーク部分以外を他の企業と提携して推進し、農業ICT分野の営業活動も展開しています。その中で、自社女性営業担当者を「アグリガール」と称して組織化、農業ICTの

普及に力を入れています。

プロフィール・自己紹介

2018年ドコモに入社し、3年間は東京本社で皆さまが「ドコモ」と聞いて想像するような携帯電話端末・料金プランなどの提案営業を担当していました。2021年九州支社へ異動、農業IoTを推進する現在の部署に配属されました。現在は「非公式」の社内組織「アグリガール」という一次産業に携わる女性社員の呼び名で活動しています。アグリガールはドコモの女性社員なら自己申告加入制で誰でもなれます。特定の活動内容はなく、業務上で農業に関わる人、個人的に農業に携わりたい人などさまざまです。アグリガール最

大の特徴は、80年代に一世を風靡したアイドルグループ おニャン子クラブにならった、全国連番の会員番号制です。(いただいた名刺にも会員番号が記載されていました。会話のきっかけになりそうです。)

今ではドコモビジネスが農業分野にも注力していることを知っていて入社動機にする若手社員もいるのですが、私が入社した時は、ドコモビジネスが農業に進出していたとは恥ずかしながら知らず。一次産業に携わった経験も知識もなかったため、酪農・畜産分野は今でも学ぶことだらけです。

自身の仕事と酪農との関わり

畜産・農業・水産の3分野で営業および営業担当のサポートを行って

吉益 朝香 さんの 1日のタイムスケジュール例

午前▶

家畜市場で開催される
セリにブース出展

午後▶

機器設置立ち合い、
行政畜産課訪問、
帰社後書類作成

九州各県の生産者様、自治体、農業学校、企業のそれぞれが抱える課題解決のために伺いし一緒に取り

業務で心がけていること、やりがい

います。営業は弊社デバイスの設置後のフォロー、営業サポートは製品の営業活動をするときに活用するパンフレット作成などです。畜産では、「牛温恵」「Farmnote Color」などの酪農・畜産農家向けの機器やシステムを取り扱っています。
教育機関向けにICTの授業、自治体と協同で地域の生産者向けの勉強会や、実証の取り組みをすることもあります。使用者の声から改善点や課題を見つけられるので実際に生産者のところへ足を運ぶことを意識しています。

私たちが日々いただいている、美味しい牛乳や、乳製品、お肉を生産して

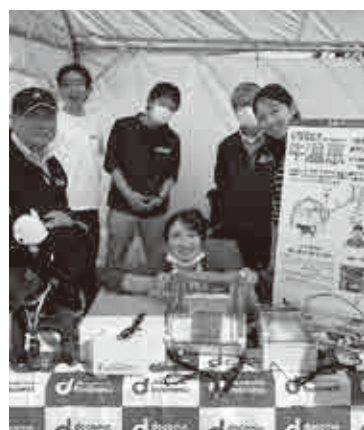
酪農業界の魅力

弊社機器を導入した生産者様から「導入して良かった」と感謝の言葉をいただけることも増えました。他の生産者様へご使用機器をおすすめしてくださって導入してもらえることもあり、本当にうれしい気持ちになります。

組むのが主で、ドコモビジネスが掲げる「現場に寄り添い共創する」を心掛けています。



▲ 展示会ブース



▲ 共進会ブース

この度は取材を引き受けてくださり、ありがとうございました。

あとがき

くださっている生産者様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。九州支社に配属になるまで、酪農そのものと関わりがありませんでしたが、今では家畜市場にお邪魔しても生産者様から気軽に声を掛けていただけますし、実際に牛のお世話を見せてもらう、お話を伺うといった機会が多く、目にするもの耳にするもの全てが新鮮です。



▲ 酪農家訪問

Farmnote



モバゲル 牛温恵



全国の酪農家に一言！

生産者の皆様と一緒に面白い取り組みをしていきたいですし、まだこの世にないものや新たなことで、どんどんチャレンジしたいと思っています。スマート畜産の普及で皆さまの負担が少しでも軽減される未来に向けて、ドコモビジネスができるかたちで一緒に取り組んでいきたいと思っています。

私自身、異業種の方への取材を通じて様々なお話を聞くことができ、大変良い刺激になりました。業種・業態は違えど、酪農・畜産業界に携わるもの同士、ともにがんばっていきましょう！
貴社の益々の発展と吉益さんのご多幸を心より願っています。

(B・Y)

全酪連・全国酪農協会 会員職員研修会

令和7年11月12日(水)に、全酪連・全国酪農協会 会員職員研修会を開催いたしました。

今回の研修会は、「生乳需要創出の必要性―人口減少社会への対処はいかに―」と「畜産経営における経営継承の推進」の2つのテーマで開催いたしました。本号では、一般社団法人日本乳業協会 常務理事 本郷秀毅氏に講演いただきました「生乳需要創出の必要性―人口減少社会への対処はいかに―」を掲載いたします。



生乳需要創出の必要性 ―人口減少社会への対処はいかに―

一般社団法人日本乳業協会 常務理事 **本郷 秀毅氏**

牛乳・乳製品の需要拡大ができれば、酪農乳業界が抱えている多くの課題が解決します。しかし、日本が人口減少社会に入った中で、現状の需要の維持・確保、さらに新しい需要を創出するということは非常に難しいことだと思っています。本日は、現在の需要拡大対策や今後の政策など、私見を交えてお話できればと思っています。

生乳需要量等の推移

牛乳の消費は、1990年頃までは増加していましたが、それ以降は減少に転じ、特に2003年から2010年に約百万トン、24%も減少しています。ダイエット志向などを背景に、ミネラルウォーターや茶系飲料などの需要が伸び、さらに豆乳や果汁飲料

など、次々と市場に投入される様々な飲料と競争し、牛乳は非常に苦しい戦いを強いられました。

チーズの需要は、つい最近まで右肩上がりでした。しかし、価格の引き上げもありここ数年は減少傾向にあります。発酵乳も、コロナ禍で免疫機能が期待され需要が急増しましたが、2021年以降は3年連続で減少しています。コロナ禍以降は需給が緩和しているため、保存性の高い脱脂粉乳・バター等の生産が増えています。

バター不足以降の生乳需給を めぐる情勢

2014年末のバター不足問題に端を発し、農水省が畜産クラスター事業や性選別精液利用拡大支援など生産基盤強化のための対策を打ち出したことで、2017年度から乳用雌子牛の出生当数が増加し、2019年度から生乳生産が増加に転じています。しかし、2019年度末に向けて新型コロナウイルス感染症が国内でもまん延し始め、業務用乳製品需要が急減、全国一斉休校で学乳の供給も停止されました。生産が拡大に転じたのと同時に需要が急減するという不幸に見舞われました。

需給環境の急変に対処するため、国は脱脂粉乳の過剰在庫処理対策を講じ、生産者団体も輸入チーズの置き換え等による生乳処理量の拡大に努めました。しかしながら、生乳生産量は増加に転じており、脱脂粉乳の在庫は過去最高の水準となったため、生産者団体は生産基盤を棄損させないことを前提とした生産抑制対策も講じることとなりました。

生産抑制は2024年に解除されましたが、依然として生産が過剰気味で推移していることから、新たに全員参加型の恒久的な需給調整対策を措置する必要性が議論されました。結果的に、2025年、酪農乳業関係者全員が参加しやすいよう生処がともに15銭/kgの拠出金を負担し、7年間で約150億円の基金を創設する新たな酪農乳業需給変動対策特別事業を（一社）Jミルクが立ち上げました。ただし、想定している脱脂粉乳の処理量は、2022、2023年度における単年度の処理量に過ぎません。

新たな酪肉近代化基本方針に おける長期見通し

新たな酪肉近においては、2030年度の生乳生産目標数量は現状と同

じ732万トン、長期的な姿（参考）として780万トンとしています。注

視すべきは、「現状の生産量を維持していくだけでも飲用需要を10万トン以上拡大させることのほか、脱脂粉乳需要について、この数年と同規模の4～5万トンの在庫削減対策を継続していくか、それに代わる需要を拡大させていくことが不可欠である」と明記していることです。人口減少が予測されている中で、飲料需要を10万トン以上拡大させ、その上さらに脱脂粉乳の需要拡大ができれば、4～5万トン規模の在庫削減対策を毎年継続して実施していくことが必要だとし、それができて初めて生産量の現状維持ができる、としているのです。これは実に高いハードルであり、生産者の皆様が考えている以上に厳しい内容です。

新たな需給調整対策事業が創設されたから心配ない、とは思わないでください。対策費は7年かけて積み立てる予定ですが、需要拡大ができなければ、これが毎年必要になるという見立てを国が表明していることになりま

す。このため、国は牛乳乳製品の需要拡大を最重要課題と位置づけており、（二社）Jミルクを中心として補助事業を活用しつつ、業界一体となった需

需要拡大対策

要拡大対策を講じていく方針となっています。

とりわけ脱脂粉乳の需要拡大が課題となっているため、これまでは当協会（二社）日本乳業協会が事業実施主体となり、ヨーグルト消費拡大対策を実施してきました。2025年度下期においては、（二社）Jミルクが事業実施主体となり、ヨーグルト消費拡大対策を含む国産牛乳乳製品の需要拡大等事業を実施します。「牛乳でスマイルプロジェクト」の下でロゴを有効活用しながら、国産牛乳乳製品の需要拡大に向けた業界一体的な取り組みを実施することとなりますので、関係者の皆様のご参加とご協力を切にお願いするところです。

今後の需要創出

人口減少と少子高齢化の進展に加え、様々な飲料との競争により、飲用需要は減少していくと予測されます。他方、発酵乳は構成比の増える高齢者の健康志向などによりある程度底堅い需要が維持されるものと推測されます。また、チーズも、ある程度底堅い需要が維持されるもの

の、国産品の割合は15%に過ぎないこと、関税率が撤廃に向けて段階的に削減されていくこと、関税率の削減に伴い関税割当制度の効果もまもなく失われることという課題に加え、国産チーズ生産奨励事業のあり方など国産品の需要は政策に影響されるため、予測が非常に困難なところです。

酪肉近でいう「年間4～5万トンの脱脂粉乳在庫削減かこれに代わる需要拡大」は、ヨーグルトだけでは50万トン以上に相当します。割合にして約4割増の需要を創出することは事実上困難ですので、ヨーグルト対策だけでは到底実現不可能だと思います。また、食用向けとして補給金を交付してまで生産した脱脂粉乳

に対して、さらに補助金をつけて飼料用に転用するような対策がいつまでも続けられるでしょうか。今後、拠出金の負担が継続的かつ多額になるとすれば、脱脂粉乳を生産していい乳業者や脱脂粉乳向けをほとんど生産しない都府県の生産者などの理解は得られるでしょうか。在庫削減対策と併せて生産抑制もせざるを得なくなる可能性もあると考えると、何向けでもよいので食用の需要

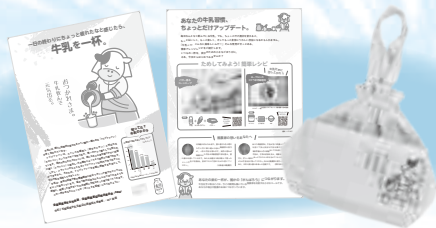
を創出しなければなりません。

日本の生乳需要約1,200万トンのうち、国内生産は約60%です。この他に約40%の需要があります。国内にはチーズの需要が生乳換算で約400万トンもあり、その85%は輸入品で賄われています。需要が創出できない中でプール乳価の維持を優先するのであれば、生産抑制を行うしかないと思われます。他方、生産抑制の回避を優先するのであれば、価格はある程度犠牲にしても需要のあるチーズなどに生乳を仕向けていくことは、有力な選択肢の一つではないかと考えます。

生乳需給調整の長い歴史を振り返れば、価格と量のバランスをうまく取りつつ、その時々が生乳需給に適切に対処してきたことがわかります。その生産者の取り組みを少しでも後押しするような政策的な支援策が措置されれば、少しは痛みを軽減できるのではないかと考えるところです。

いずれにせよ、当面は、業界を上げて需要の創出に最大限取り組みことが最重要だと考えます。そのためには、関係者が一体となった牛乳乳製品の需要拡大対策への特段のご協力をお願いする次第です。

酪農業に対する 理解醸成活動報告②



酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。今年度は、国の補助事業である国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(国産牛乳乳製品の需要拡大等事業)を活用して実施いたしました。

全国各地から報告が届いていますので先月号に続きその活動をご紹介します。ご協力いただいている関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

北海道

●酪農を学ぶ高校生との交流会

日時:11月21日(金)

場所:とわの森三愛高等学校

参加者:北海道酪農

青年女性会議

※詳細は本誌18Pのトピックスに掲載しています。



●理解醸成活動

日時:11月22日(土)

場所:秋保ヴィレッジ

(仙台市)

参加者:東北酪農

青年女性会議



宮城県



●岐阜大学応用生物学部講義

日時:11月25日(火)

場所:岐阜大学応用生物学部

参加者:愛知県内酪農家 他

岐阜県

●2025はんだふれあい産業まつり

来場者:15,000人

日時:11月9日(日)

場所:半田ぴよログスポーツパーク会場

参加者:愛知県内酪農家、

愛知県酪農農業協同組合



●令和7年度美浜町産業まつり

来場者:1,200人

日時:11月9日(日)

場所:美浜町総合公園

参加者:愛知県内酪農家、

美浜町酪農組合、

愛知県酪農農業協同組合

愛知県

●酪農業に関する理解醸成活動 (特別授業)

日時:11月21日(金)

場所:三重県立四日市農芸高等学校

参加者:三重県内畜産農家、
(一社)三重県畜産協会 他



●農山漁村のつどい

日時:11月29日(土)

場所:三重県総合
文化センター

参加者:三重県内酪農家、
県行政関係者 他



●おかやまミルクフェア2025

来場者:6,000人

日時:11月1日(土)

場所:北長瀬未来ふれあい総合公園芝生広場

参加者:おかやま酪農業協同組合女性部・青年部・

おかやま酪農業協同組合・岡山県酪農乳業協会 他



●第45回阿久比町産業まつり

日時:11月15日(土)～16日(日)

場所:阿久比町役場

参加者:愛知県内酪農家、
阿久比町酪農組合、
愛知県酪農農業協同組合



●子牛おたまの卒業式

※35日間子牛の貸し出しをし、
小垣江東小学校の5年生が
世話をする実習を毎年実施。

日時:11月18日(火)

場所:小垣江東小学校校庭

参加者:愛知県内酪農家(清水牧場)

●食テクノロジー企業プロジェクト プレゼンテーション

日時:12月6日(土)

場所:名古屋農業園芸・食テクノロジー
専門学校

参加者:愛知県内酪農家、
畜産農家 他



見と未来紀

No. 391

臼田牧舎株式会社
岐阜県加茂郡坂祝町

従業員全員との情報共有で 安定経営を目指す



▲ 従業員の皆さん (中央)臼田代表 (左隣)竜也さん (右隣)川合場長

地域の紹介

今回訪問させていただいた臼田牧舎株式会社は、岐阜県の中南部に位置する加茂郡坂祝町にあります。坂祝町は、東西に4・9 km南北に4・3 km面積は12・87 km²と小さな町です。人口は約8,200人で、町の南部には1級河川の木曽川が流れています。町内には四季折々の美しい山や川などがあり自然豊かな町です。

この地域ではトマトやセントポーリア



▲ 牛舎全景

等の花卉栽培がおこなわれていますが、同時に自動車産業が盛んで、就業者人口の半数以上は自動車関連会社勤め、製造業の地域でもあります。

町にはJR坂祝駅があり、名古屋圏にも通いやすく誰もが訪れやすい所です。普段からゆったり・のんびり過ごすことができ、子育て世帯ものびのびと暮らしやすい町です。また、マスコットキャラクターの「ほぎもん」は、町内外のイベントで愛くるしい笑顔で町のPR活動を行っています。

臼田牧舎(株)の沿革

代表のご主人の祖父が、戦後に1頭の牛を飼い始め、臼田牧舎がスタートしました。現在の臼田牧舎(株)は搾乳牛45頭(経産牛60頭)、哺育・育成牛5頭を飼養しており、1日当たりの乳量は約1,500 kgです。





▲ 搾乳牛舎



▲ 牛舎入口

以前、搾乳牛頭数は70頭ほどでしたが、たい肥処理（圃場面積）を考慮して現在の頭数に落ち着いたとのこと。

また、岐阜県はブランド和牛の「飛騨牛」が有名ですが、白田牧舎（株）でも和牛を飼養して、繁殖用雌牛を21頭、子牛育成牛を17頭、肥育和牛を10頭飼養しています。基本的には9ヶ月齢で素牛として出荷していますが、現在和牛雌牛に関しては、肥

育出荷しています。

白田牧舎（株）は、代表の白田実穂さんと従業員4名（内、1人は息子さん）、アルバイト2名で作業を行っています。

息子の竜也さんは現在29歳で、白田代表によると「修行中」だそうです。取材の合間に作業風景を見せていただいたところ、修行中には見えない働きっぷりでした。作業全般については、10年以上白田牧舎（株）で働かれている川合場長を中心に行われています。

白田牧舎（株）は、生乳の出荷など酪農関係は美濃酪農農業協同組合連合会、和牛出荷などの和牛関係はめぐみの農業協同組合の両組合に「お世話になっている」とのことです。

経営の概況

白田牧舎（株）では、耕作面積25町ほどの土地で、イタリアン・イネWCS・デントコーンを栽培されています。その内90%ほどはイタリアンの圃場で、10月に播種し、ゴールデンウィークの頃から刈取りが始まります。例年、4番草まで収穫しますが、最近では気温が高く、5番草まで収穫しているそうです。ただ、良いことばか

▲ 繁殖用雌牛（牛舎内）



▲ 繁殖用雌牛（パドック）

りではなく、収穫終了の時期が遅くなるため、次期の播種に影響が出るということです。これだけ作付けしても、自給飼料のみでは給与量をまかなえず、スーダンやクレイングラス、アルファルファを購入し管理されています。

乳牛にはTMR飼料を給与されています。6時と14時の2回給与で、TMRは竜也さんが調整されています。定期的に血液検査等を行い、結果を踏まえて混合内容を改善しているそうです。基本的には粗濃比は現物換算で6…4での調整となっています。

従業員との情報共有が大事

白田牧舎（株）の基本方針として、牛の体調バランスを一定にすることにより、経営を安定させる。そのために牛を見て、科学的検査結果を見て、何かあった場合にはすぐに対処する。この基本が良い経営に繋がっていると思います。

作業前に、従業員と状況確認を行い、情報を共有することによって問題が大きくなる前に対応されています。従業員個々の基本の作業分担はありますが、誰もがどの作業でも行えるよう日々のシフトを考えられています。



▲ シフト表

また、Microsoft社の「ワンドライブ」を活用し、常に情報を共有できるようにしています。以前は情報を共有できず、共有できたとしても遅かったため、牛の事故につ



▲ 整理整頓されている



▲ 処理室

ながったこともありました。
また、牛恩恵やペットカメラを導入することにより、常に牛の状況を確認でき、事故防止や分娩対応などの改善につながるなど、効率化も進められています。牛の体調確認を常に行い、疾病等の早期発見・早期治療が大切だということです。
ここ数年、異常な暑さが続いています。改善の一環として、今年はミストの噴霧時間を延ばしたそうです。牛舎屋根への暑熱対策などやれることはやっていますが、今年はミ

1年ほど前にご主人が他界され、白田代表は「息子にバトンタッチするまでのつなぎ」だと話をされました。息子さんにうまく引き継げるようにということですが、話をお伺いしていくと、白田代表の酪農や牛に対する気持ちがとても前向きに感じ



▲ カーフハッチ



▲ カーフハッチ内の仔牛

スト時間延長によりさらに牛へのダメージは和らぎました。牛に対するこうした対応が、白田牧舎(株)の安定経営に繋がっていると感じました。

ました。
同じ地区にもう1戸の酪農家がありますが、2年後には廃業の予定だそうです。経営を続けていくには多くの費用が必要です。機械の更新も必要ですが、高額な費用が掛かるため、なかなかできないと悩んでおられます。国や行政からの手厚い支援が必要と話されていました。ただ、このような話をされながら、前向きな気持ちを切らさない意志の強さを強く感じました。

あとがき

この度はお忙しいところ、快く取材を引き受けて下さいましたこと、深く御礼申し上げます。取材を通して感じたことは、地域に根差した酪農経営を念頭に置かれ、いろいろなアイデアや行動力で常に経営の改善に取り組んでおられる、ポジティブな方だということです。

従業員に対しても福利厚生を充実させ、乳肉複合で安定的な経営を行い、乳量の増量と繁殖成績アップを両立させるための科学的分析による飼料設計を行うなど、やれることはすべてやるという、前向きな気持ちを強く感じました。



▲ 堆肥舎

▼ イタリアンラップサイレージ



▲ TMRミキサー

「酪農家がどんどん少なくなっていく。1戸でも多く頑張っていてもらいたい」という言葉を頂きましたが、地域の酪農家が廃業していく白田代表の切なる気持ちと感じました。しかし、白田牧舎(株)は白田代表のもと、ますます健全な経営を続けていけると思います。

酪農部
発「ミルクフェスin豊洲」にて、
全酪連ブースを出展いたしました

11月15日(土)豊洲公園 花木とモニュメントの広場において、「子供から大人まで牛乳・乳製品の価値や魅力を体感できるミルクイベント」をテーマに、牛乳でスマイルプロジェクトメンバーによる「ミルクフェスin豊洲」が開催されました。

当日は、隈部会長をはじめ長井俊彦農林水産省畜産局長、自民党畜産・酪農対策委員会の築和生委員長による開会挨拶と牛乳での乾杯によりイベントがスタートしました。

各企業・団体による計20ブースが、それぞれの特長を生かした出展内容で牛乳・乳製品の魅力を発信しました。本会ブースでは、LL牛乳・乳飲料等の販売に加え、脱脂粉乳を繊維に練り込んだ糸で作られたTシャツや刺しゅう入りキャップ等の販売を(株)Blueprint Oneの協力のもと行いました。そして、全

国酪農青年女性会議委員にも参加頂き、多くの来場者とブース内で交流頂くことが出来ました。

イベント当日は天候にも恵まれ大変多くの来場者で会場は溢れかえり、全酪連おなじみのマスコットキャラクターが登場すると、記念写真を求める長い列ができるほどの賑わいぶりでした。そして、用意した商品も早々に予定数量が完売するなど、販売を通じ牛乳・乳製品の魅力を発信することができました。

全国的な物価上昇に伴う、家計防衛意識の高まりから消費が落ちる中で、本イベントを通じ業界一丸となった消費拡大に向けたキックオフができたと思います。今後も、全酪連の事業の中で、全国酪農青年女性会議や酪農部の物販だけでなく、様々な取り組みを実施し消費拡大の一助を担ってまいりたいと思います。

(A.Y)



酪農部
発

全国農協乳業協会 「販売担当者情報交換会」並びに「営業スキル研修」を 開催いたしました

酪農部が事務受託している、全国農協乳業協会（会長 瀧名靖 榛名酪農業協同組合連合会 代表理事専務）において、販売担当者情報交換会並びに営業スキル研修を開催いたしました。

販売担当者情報交換会は、毎年11月に大阪市内で全国の会員販売担当者が集まって、学校給食用牛乳の配送課題や、販売状況等の直近課題について情報交換を行う場となっております。本年度も11月5日に新大阪ワシントンホテルプラザにて、18会員39名の参加を得て開催いたしました。本年度は、（一社）Jミルク生産流通グループ関次長より「2025年度学校給食用牛乳に関する配送コスト低減等課題解決調査結果について」の情報提供をいただき、合わせて国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター寒地酪農研究領域乳牛飼養グループ長 上田様より「牛乳・乳製品の研究の紹介と、今後の展開」について情報提供をいただきました。

その後、「学校給食用牛乳の配送効率化への課題」や、本年飲用乳価改定に伴う製品価格改定後の

「牛乳・乳飲料の販売状況」について情報交換を行いました。毎年企業や地域の垣根を越えて、それぞれの課題や優良事例等について闊達な意見交換がなされました。

終了後の懇親会においても、引き続き更なる情報交換を重ねたところでした。

営業スキル研修は、会員営業職員の方を対象に本年度は「プレゼンテーション研修」を開催いたしました。お客様への提案だけでなく、社内で意見を伝える際にも活用できる話し方や、それを体得するために必要な練習等についてWEB研修にて学んでいきました。「話の構成をどのように作るか」「どのような話し方が通じるか」等、具体的なスキルを学び今後の営業活動に活用できる研修となりました。

11月の研修をもって、全国農協乳業協会では令和7年度予定している研修会を全て終えました。来年度も、生産者が搾った生乳を、より高付加価値で消費者に届けるために、乳業メーカーの職員への研修会の提供に注力してまいりたいと思います。（A.Y）



▲ 営業スキル研修受講風景



▲ 販売担当者情報交換会 会場風景

札幌支所発

6年ぶりの熱気！ 「酪農女性サミット2025」

12月3日(水)、4日(木)の2日間、札幌市において「酪農女性サミット2025」（主催：酪農女性サミット実行委員会、後援：ホクレン農業協同組合連合会・JA全農）が開催されました。2017年から3年間連続で大盛況となった「酪農女性サミット」が6年ぶりに開催されることとなり、会場は女性を中心に道内外の酪農関係者約240名で埋まりました。本会は協賛並びにステッカー、酪農まるごとカレーを提供し、元気な酪農女性の集いを応援しました。

2日間にわたるプログラムは、“お手伝い×旅”で地

域に人が集まる仕組み作りを提案する株式会社おてたびCEO 永岡里奈氏による基調講演、道内女性酪農家3名によるトークセッション、また西日本を中心に社員3名で年間2万頭の削蹄を行う女性削蹄士 株式会社G'day Hoof Care 代表取締役 佐藤麻耶氏による肢蹄管理についての講演、さらにはワークショップと盛りだくさんでしたが、参加者は終始リラックスして、笑って共感して、存分に楽しまれている様子が伺えました。女性にとってはこのような時間が日々の仕事の源になるのだとあらためて感じました。（T.H）

- ▼ 永岡氏による講演、“おてたび”では履歴書によるマッチングにこだわることで相互のずれが少なく高い評価につながるとのこと。地域活性化にかける熱い思いのほか、酪農現場でのマッチング事例も紹介された。



▲ 酪農後継者である永谷万里奈氏(右)、伊藤沙智氏(中央)と、経営委譲を終え若手を見守る那須美由紀氏(左)による和やかなトークセッション

札幌
支所発

北海道酪農青年女性会議 「しくじりは失敗ではない、夢に向かって積み重ねて」 高校生との交流会

北海道酪農青年女性会議（中山斉委員長）は、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の生徒と一緒に「酪農を学ぶ高校生と生産者による交流会」を開催しました。4回目となる今年も機農コース2年生を対象に、生徒30名と酪農家10名が参加しました。

今年は第51回全国大会の発表者である牧之瀬佳貴氏（弟子屈町 牧之瀬牧場）に基調講演をいただきました。海外を飛び回るサラリーマンから酪農家に転身した経緯や思い、就農7年間のチャレンジや失敗を“しくじり先生”として振り返り、「思い描いた理想にはまだたどり着いていないが、ひとつずつ近づいてきた。1日や2日では何も変わらないものでも365日続ければ必ず大きな変化に繋がる。結果がすぐに見えなくても、大きな夢に向かって確実に積み重ねてほしい。しくじりは失敗ではない。」と生徒にエールを送りました。

続いて行った交流会では生産者1名と生徒少数がグループになり、自由に意見交換を行いました。現在

酪農ヘルパーで新規就農を目指している同校の卒業生など、今年も多様なメンバーに参加いただきました。サラリーマンを経て就農した生産者からは、「サラリーマンは楽しかったけど、酪農は牛の改良の楽しさもあり、そしてやり方次第で自分の時間もとれる。すぐに就農していたらそれに気が付けなかった。自分は学校では酪農を学ばなかったが、学びは自由。将来酪農を継ぐつもりでも、いろいろな体験をして回って帰ってきたらよいよ。」と語りかけました。また、「離農が進む中で長く経営を続けるコツ」を聞かれた別の生産者は「酪農はお金だけではないが、儲かることはやはり魅力的な事。利益を出すためには？」と問いかけていました。同じ酪農家でも地域や経営、背景もさまざまです。生徒も酪農専攻の後継者のほか、畑作園芸専攻、看護師や法律家志望、食品企業の後継者、など出身も進路も異なりますが、今回の交流が生徒それぞれに響くこと期待しています。（T.H）



仙 台
支所発

ドローンを使った 牛舎屋根への遮熱塗料塗布の取組紹介

東北地方の夏も年々暑くなってきており、生産現場においても暑熱対策の重要性が注目されています。宮城県酪農農業協同組合（上野栄公代表理事組合長）では来夏に向け、ドローンを使った牛舎屋根への遮熱塗料塗布を事業として取り組むことになりました。今年度については試験的に6戸の組合員で実施し、11月27日に地元新聞社も取材にくる中、作業が行われました。

このたび実施した該当の牧場は、片側25頭の対尻式つなぎ牛舎で屋根面積は668㎡です。作業内容は、屋根の汚れを落とすための洗浄に2日、塗布に2

日の計4日間の行程になり、洗浄・塗装ともにドローンを使って行われました。

ドローンを使つての作業の利点は足場を組む必要がないため通常施工よりも低価格になる点、高所作業をドローンが行うため安全面での点があります。また、今回のドローンはケルヒャー社と共同開発した高圧洗浄ドローンが活躍しました。

仙台支所でも牛の健康と経営を守る「サマーリリーフ2025」に取り組んできました。細霧噴霧器や送風機など施設面での暑熱対策の次の一手として今後注目されるかもしれません。（T.S）



大 阪
支所発西日本酪農青年女性会議
「第30回酪友フォーラム」開催

11月13日(木)、西日本酪農青年女性会議(山下大介委員長)は、愛媛県松山市道後温泉の「にぎたつ会館」において第30回酪友フォーラムを総勢62名の参加のもと開催しました。第1部は(株)クラシングR 代表取締役 瀧本真奈美氏による「家庭内の食品を把握・管理することで食品ロス削減へ」と題しまして講演を行いました。瀧本真奈美氏は愛媛県在住で収納、時短家事、防災士、片付け遊び指導士など多くの資格を保有し「暮らしが変われば 未来が変わる」をテーマに部屋づくりや収納、時短家事など家族の調和も考慮した心地よい暮らし方を提案されています。SNSなどの総

フォロワー数は20万人 (Instagram: @takimoto_manami) 書籍7冊を出版、掲載誌150冊以上。ヒルナンデス、あさイチ、ZIP、ソレダメ、サタデープラスなどTV他メディア出演やMCなども多数実績がある方です。講演内容は「やってはいけない収納NG」や「食品収納の基本」等を学びました。参加者から質問も多く大変実りのある講演になりました。

第2部はグループワークを2つのテーマについて行いました。「食品ロス」と「酪農(仕事)現場ロス」皆さんが普段心がけていること、実践していることを共有しました。
(A.O)



▲ 講師 瀧本真奈美氏



▲ 坊ちゃんカラクリ時計の前で

福岡
支所発

「第16回全日本ホルスタイン共進会報告会(長崎県)」を開催 長崎県初! (株)S.T.M.HOLSTEIN出品牛が優等賞1席 & ベストアダー賞をW受賞!!

「第16回全日本ホルスタイン共進会北海道大会」(10月25～26日開催)において、長崎県代表の(株)S.T.M.HOLSTEIN(代表取締役宮本貞治郎氏 雲仙市瑞穂町)の「パッションランド ルーク ジャガー号」が第8部(2歳ジュニア:28ヶ月未満)の優等賞1席とベストアダー賞をダブル受賞しました。

11月24日(月)、森田屋(長崎県雲仙市)にて、長崎県酪農業協同組合連合会(中村隆馬会長)主催による報告会・祝賀会が行われ、長崎県庁をはじめ関係者約50名が集いました。主催者の中村会長より『通常の上位牛は地元北海道が占めるが、今回の優等賞1席は快挙である』と慶びの挨拶があり、長崎県農林部畜産課の森修蔵課長より来賓祝辞を頂きました。

また、同連合会の森参事が10日間に渡る行程の苦労や次回全共に向けた飼養管理、準備等の改善すべき点を報告し、出品・リードマンを務めた息子の取締役宮本貞臣氏が受賞の喜びと関係者へお礼と感謝の言葉を述べられました。

報告会後の懇親会では参集された酪友及び関係者が宮本貞臣氏と楽しい時間を過ごす事が出来ました。

最後に(一社)長崎県畜産協会の山形雅宏専務理事より(株)S.T.M.HOLSTEINの今後の発展と関係者が一致団結して長崎県酪農へ貢献することを祈念して閉会しました。

弊会も改めて長崎県及び九州の酪農産業に寄与する様に努めねばと思い、会場を後にしました。(T.G)



▲ (株)S.T.M.HOLSTEIN 宮本貞臣取締役



▲ 長崎県酪連 中村隆馬会長



▲ 長崎県農林部畜産課
森修蔵課長



▲ (一社)長崎県畜産協会
山形雅宏専務理事

福岡
支所発中国・四国・九州地域農協乳業協議会が
「第14回製造実務者研修会」を開催!!

11月11日(火)～12日(水)、ニシラク乳業(株)（福岡県北九州市）において、福岡支所が事務局を務める中国・四国・九州地域農協乳業協議会（会長：有村義昭南日本酪農協同(株)代表取締役会長）は、製造実務者の知識及び技術向上を目的とした「第14回製造実務者研修会」を開催し、11会員総勢36名が参加しました。

昨年度は、日本で初めて発生したランピースキン病の影響で開催できず、2年ぶりの開催となります。

1日目には、開催地であるニシラク乳業(株)鬼塚代表取締役社長の挨拶に続き、工場視察、「ニシラク乳業の省エネの取り組み」について研修、5班に分かれて意見交換分科会を実施しました。また懇親会では日頃より接する機会が少ない他農プラ製造部門の職員同士が課題・悩

みへの対応などを情報交換して盛り上がりました。

2日目には、EXPO2025大阪・関西万博でも特別イベント、公演を行った日本テトラパック(株)より、尾内執行役員セールスディレクターを招いて「未来の食品システムに向けた取組み～共に食品システムを変革する～」と題して講演を頂きました。

研修を通して、「他社との率直な意見交換は有意義」や「役職や年齢、担当職種の違う方の意見には気づきや参考になることが多かった」、「ぜひ続けてもらいたい」などの意見も多く、農プラ間の連携強化のため、より良い研修にしたいと気持ちを新たにしました。最後にご協力を頂きましたニシラク乳業(株)にお礼申し上げます。（T.S）



▲ 鬼塚社長(ニシラク乳業(株))の挨拶



▲ 工場視察



▲ 講演 尾内執行役員
セールスディレクター



▲ 研修「ニシラク乳業の省エネの取り組み」

福岡
支所発インド共和国視察研修団、
大分県酪協と九州乳業株式会社を視察訪問

11月18日(火)、大分県酪農業協同組合および九州乳業株式会社(大分市)は、インド共和国の漁業・畜産・酪農省 畜産・酪農局の職員をはじめとする研修団18名の視察研修を受け入れ、意見交換を行いました。これは、インドの「協同組合を通じた酪農セクター生計向上事業」に基づくもので、15日(土)から8日間にわたる来日の中で一般財団法人アジア農業協同組合振興機関(IDACA)の要請を受けた全酪連が、大分県酪協及び九州乳業(株)に依頼し行われたものです。

インドでは酪農家の集約化が遅れており、地域によっては「体系的な事業・戦略計画が策定されていない」、「需要を踏まえた生産・加工ができていない」等の課題があるため、酪農協同組合の運営能力強化、乳製品加工施設と流通インフラ改善による牛乳乳製品の販路拡大と酪農家の収益向上を目指しています。

当日は、大分県酪協の本川和幸代表理事組合長よ

り、専門農協の基本方針や事業内容、生乳・乳製品流通体制等の説明があり、研修団からは生乳品質指導や乳価設定、補給金の仕組み等についての質問が次々となされました。

九州乳業(株)工場視察の後、内野公浩取締役営業本部長は自社の企業理念や事業内容、CSR活動等を説明し、研修団からは製品の検査体制や価格形成の要因・プロセス、脱炭素社会への取組等について質問があり、活発な質疑応答がなされました。最後に構内にある直売所や生乳検査所、運送会社等を見学し視察研修を終了しました。

通訳を介した研修はスムーズにいかない場面もありましたが、日本の集乳・加工・品質管理・価格交渉・物流を農協・農協プラントが担い、酪農家と消費者を効率的かつ安定的につなぐ仕組みがインドの酪農発展に貢献すればと思います。(T.S)



▲ 本川代表理事組合長(左)の説明



▲ 九州乳業(株)あげての研修対応



▲ 質問多数の製品検査室視察



▲ インド共和国研修団より感謝の贈り物



福岡
支所発

「第51回ふるさとくるめ農業まつり」開催

11月8日(土)～9日(日)ふくおか県酪農業協同組合（中島清代表理事組合長）がメンバーである、ふるさとくるめ農業まつり実行委員会主催の「第51回ふるさとくるめ農業まつり」が「いのちを育む大地と人のふれ愛」をテーマに久留米百年公園（福岡県久留米市）で開催されました。

多くの市民に愛されるお祭りで行楽日和の週末ということもあり今年もたくさんの来場客で賑わいました。搾乳やバター作り、子牛の体重当てに参加した家

族連れや骨密度測定や牛乳試飲、バターとマーガリンの食べ比べに来られた方々が乳製品販売ブースにも立ち寄られ行列となりました。

全酪連も乳製品の消費拡大のため、バター・チーズを販売し、「昨日買って美味しかったのでまた来ました」という早くもリピーターの方、「普段は佐賀まで買いに行くんですよ」という熱烈な全酪チーズファンの方、全酪連の乳製品を購入する消費者の生の声を聞ける貴重な機会となりました。（F.C）



▲ 子牛に興味津々 (^_^)



▲ 牛乳乳製品直売に長蛇の列

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B & W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0014

仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ8階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

水際対策で

家畜伝染病予防を！**4**

帯広空港にて「動物検疫広報キャンペーン」を
関係団体合同で実施

「動物検疫広報キャンペーン」帯広空港実施内容

1. 開催日

令和7年11月28日(金)

2. 実施場所

帯広空港国際線ターミナル 搭乗
手続きカウンタ―

出国する旅行者を対象とした「肉
製品の持込禁止」「入国時の靴底消
毒」が描かれたポケットティッシュ
の配布並びに呼びかけ

3. 参加者

動物検疫所北海道・東北支所、北
海道十勝総合振興局産業振興部農務
課、北海道十勝家畜保健衛生所、全
酪連札幌支所

4. 当日の様子

帯広空港における検疫について
は、国際便の到着に合わせて新千
歳空港より検疫所職員が出張して
(動検1名、植防1名) 対応されて
います。新千歳空港に比べて離発

着便は少ないものの、これから冬
場に向けて往来する空港並びに便
数が増加することから、この度帯
広空港においても防疫キャンペー
ンを実施しました。

当日は韓国（清州）便に合わせて
靴底消毒の協力や海外からの肉類・
肉製品持込み禁止を喚起するティッ
シュ配布を行いました。赤ちゃん連
れの韓国人からは、ベビーフードに
肉が含まれていてもだめなのか？と
いう質問がありました（動物検疫所
によると持込可能な物、不可能なも
のはかなり細かく分かれているが、
基本的に肉が含まれている物は不可
という形をとっているそうです）。半
数以上は帰国する韓国人でしたが、
韓国旅行の日本人ツアー団体もお
り、広く周知することができました。



家畜の悪性伝染病である口蹄疫やアフリカ豚熱が東アジア諸国でまん延してお
り、韓国では3月に1年10ヶ月ぶりの口蹄疫が発生、日本へ侵入するリスクが極め
て高い状況が続いています。

日本への侵入を防止するため、渡航者や入国者等に対し注意喚起を行うことを目
的に、4月の福岡空港に始まり7月の仙台空港、8月の中部国際空港、10月の新千
歳空港に続き、この度帯広空港においても動物検疫所各支所・出張所の協力のもと、
動物検疫広報キャンペーンを実施しました。

今後も国・県・生産者団体が協調・連携して家畜伝染病予防に努めていきます。



11/14

- 鈴木憲和農林水産大臣へ日本酪農政治連盟及び東北ブロック酪政連
総勢17名が表敬訪問（於：千代田区霞が関 農林水産省 3階大臣室）



11/21

- 自由民主党 酪政会総会を傍聴及び日本酪農政治連盟 中央委員会を開催
（於：千代田区永田町 憲政記念館 会議室 1～3号室）

- ①ALIC酪農経営支援総合対策 酪農ヘルパー事業
- ②最適土地利用総合対策事業について農水省より説明



- 10酪農団体主催による秋の叙勲記念祝賀会が開催され、臼井氏（酪農とちぎ農協組合長）並びに
長恒氏（元おかやま酪農協組合長）の旭日双光章受章に正副委員長が出席し祝福。
（於：港区新橋 第一ホテル東京）

- 畜産酪農対策委員会が開催され、正副委員長6名が出席。
団体要請に柴田委員長が令和8年度酪農政策・予算確保に関する要望を発言。
会場に牛乳を配布（於：千代田区永田町 自民党本部 101号室）



12/5

- 議員面会及び要請活動（坂本哲志衆議院議員・森英介衆議院議員・築和生衆議院議員）へ
正副委員長出席（於：千代田区永田町 衆議院議員会館）





日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和7年10月～12月

10/2

- 畜酪対策委員会が開催される。
柴田委員長が出席し、水田活用の直接支払い交付金の継続と拡充を発言（於：千代田区永田町 自由民主党）
- 自由民主党 酪政会総会を傍聴及び日本酪農政治連盟 中央委員会を開催
（於：千代田区永田町 衆議院議員会館第一 地下 大会議室）

10/3

- 農林水産省 牛乳乳製品課と令和8年度政策・予算に関する要請内容
（特に、水活・酪農ヘルパー・畜産クラスター）について意見交換を実施
（於：千代田区霞ヶ関 農林水産省）



10/19

- 進藤金日子参議院議員、農業構造転換対策に係る現地視察検討会を実施。
柴田委員長自ら現場を案内しながら耕種農家との意見交換（於：秋田県由利本荘）



10/21

- 新農林水産大臣に鈴木憲和氏（山形県）が就任

10/25
10/26

- 第16回 全日本ホルスタイン共進会 北海道大会（日本ホルスタイン登録協会主催）が
10年ぶりに開催される。（於：北海道勇払郡安平町）
全国から酪農関係者が集結し、柴田委員長出席。

10/29

- 正副委員長会議を開催 引き続き農林水産省関係部署と
令和8年度政策・予算確保に関する要請内容について意見交換（於：千代田区霞ヶ関）

10/30

- 議員面会及び要請活動（森英介衆議院議員・森山裕衆議院議員・築和生衆議院議員）へ
正副委員長出席（於：千代田区永田町 衆議院議員会館）
・森山裕衆議院議員が日本酪農政治連盟の顧問に就任。



11/7

- 自由民主党農林関係令和8年度税制改正要望 団体要請に於いて柴田委員長 改正要望発言
（於：千代田区永田町 自民党本部）



酪農乳業8団体

牛乳でスマイルプロジェクト再始動
他業界とも連携、取り組み加速

Jミルクをはじめ、全酪連、中央酪農会議、日本乳業協会など酪農乳業8団体は11月12日、都内で記者会見を開き、重要課題である消費拡大に向けて中長期的な視点も踏まえ、業界協調による取り組みを強化することを宣言した。『牛乳でスマイルプロジェクト』の旗のもと、他業界との連携の促進等も通じ、全国の関係者が一つの方向を向き、消費拡大の取り組みを加速させる。

会見でJミルクは飲用需要の低迷や今年度末8万トンの脱粉在庫見通し、飲用不需用期の対応など、酪農乳業を取り巻く課題を説明。生産基盤を支え、酪農乳業が今後も安定的に生

産を継続し、牛乳・乳製品を安定供給できるように、全国の関係者が協調して取り組む必要性を指摘した。

このため、官民挙げた消費拡大運動『牛乳でスマイルプロジェクト』を、

11月15日のイベントを契機に再始動プロジェクトの旗のもと、①共通ロゴマークの使用②飲用不需用期での活動集中③業界内外のコラボ・連携の促進——を軸に、業界一体的な活動として需要拡大へ取り組んでいく方針を示したほか、公開予定のポータルサイトについて、一層のコラボ促進へ、マッチング機能等を搭載すると説明した。

(11月20日号)

鈴木農相・小野田経済安保担当相

定例会見で牛乳飲みアピール
年末年始期の消費呼び掛ける

閣僚が牛乳消費拡大を呼びかける流れが広がっている。年末年始、年度末の飲用不需用期に向け、鈴木憲和農相(衆・山形2区)は11月21日、小野田紀美経済安全保障担当相(参・岡山)は12月2日の記者会見の中でそれぞれ地元産の牛乳を飲み干し、消費拡大への協力を呼びかけた。

鈴木農相は「寒さが増す季節になると消費が減り、一方で乳量は順調という傾向にある。そこに生じる需給ギャップが、冬場における課題。牛乳の安定供給を確保していくには、牛乳やヨー

グルトの需要拡大が急務だ」と述べ、課題を多くの人に知ってもらふ必要性を強調した。また、小野田担当相は「私自身も普段から牛乳を飲んでいて、あえてこの場でも率先して牛乳を飲み、ヨーグルトを食べることで酪農家の皆さんを応援していきたい」と消費拡大へ理解を求めた。

そのほか、12月3日には茂木敏充外相が自身の動画の中で、12月5日には平口洋法相が会見でそれぞれ牛乳消費拡大を呼び掛けた。

(12月1日号、12月10日号)



▲ 11月21日の会見で牛乳を飲む鈴木農相(農水省提供)



▲ 小野田経済安全保障担当相も牛乳消費拡大を呼び掛けた

令和7年度補正予算

畜産クラスター、牛舎整備支援再開へ 機械導入の増頭制限撤廃、予算大幅拡充

令和7年度補正予算で実施する畜産クラスター事業では、前年度比215億万円増の534億円（所要額）を計上。従来の収益性向上のメニューとして、国産飼料基盤に立脚した上で、酪農向け牛舎整備の支援を再開。機械導入時の増頭制限は撤廃した。また、新たに新規就農やアニマルウェルフェア（AW）、鳥獣害

防止など、持続性を高める取り組みも対象に拡充。牛舎の補改修等家族経営も活用しやすいメニューとした。令和7年度補正予算では、収益性向上に対して支援する従来のメニューに加え、農業構造転換集中対策の一環として行う持続性向上に対して支援するメニューも措置した（表参照）。畜産クラスター事業は生乳需

給の大幅緩和を受け、令和4年度補正予算より酪農向け支援の採択を停止していたが、生産現場から再開を望む声が上がったこともあり、安定した需給を条件下に令和6年度補正予算より酪農向け支援について一部を再開。ただし、機械導入支援における経産牛頭数を増やさない増頭制限のほか、成牛舎・搾乳施設は支援の対象外としていた。

ただ、現状酪農家戸数の離農が進み、このまま放置すれば生産基盤の弱体化が懸念されることから、畜産局企画課は「搾乳牛舎への支援を再

開し、離農跡地を確保する経営を支援していく必要がある。当然、需給状況もきちんと見ていく必要がある」と説明した。

酪農の施設整備支援再開としては、令和4年以降生産資材の高止まりにより、輸入飼料に依存していた経営に大きな打撃を与えたことも踏まえ、自給飼料に立脚した経営の推進のため、国産飼料基盤を要件化。経産牛1頭当たりの飼料作付面積として、北海道は経産牛1頭当たり40a、都府県は同10a以上を必要とした。

（12月10日号）

■ 畜産クラスター事業の内容

収益性向上タイプ

- 地域の関係者でクラスター協議会を構成し、収益性の向上を目指すクラスター計画を策定
* 1頭当たり販売額の増加、生産コストの低減、所得の増加といった成果目標を設定

- 計画に基づく施設整備や機械導入を支援
（主な変更内容）

- 酪農の成牛舎及び搾乳施設の整備を支援。国産飼料基盤（北海道40a/頭、都府県107a/頭）を要件
- 酪農機械導入の増頭制限を廃止

※酪農に係る要件は持続性向上タイプにも適用

持続性向上タイプ

～収益性に直ちに結びつかない取組も支援～

- 畜産の持続性や社会的価値の向上*を目指すクラスター計画を策定

* 国産飼料の生産・利用、雇用の創出、新規就農、アニマルウェルフェア、家畜衛生、鳥獣害防止といった成果目標を設定

- 計画に基づく施設整備や機械導入を支援
- 補改修や中古機械の導入も推進
- 収益性向上タイプの補助対象施設・機械に加え、目標の実現に必要な施設・機械も支援（車両消毒ゲートや野生動物侵入防止柵・壁及び防除機械、ストレス軽減装置など）

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。
- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。（見本紙にバックナンバーは含まれません）

全酪新報／
購読お申込フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org



ZENRAKU Winter Gift 2025

取扱期間 2025年 11月17日 ～ 2026年 1月30日 ※一部商品のぞく。

全酪乳製品セットA

税込**4,212円** (本体3,900円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター（加塩）200g：各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 冬入可

全酪乳製品セットB

税込**5,940円** (本体5,500円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/全酪ゴーダ125g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター（加塩）200g/全酪パウダーチーズ70g：各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 冬入可

全酪 牛飼いのバター5個セット

税込**4,860円** (本体4,500円)



内容：牛飼いのバター（加塩）200g×5個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 冬入可

その他にもたくさんの商品をご用意しております。
ぜひオンラインショップにてご確認ください！

ご注文方法

全酪連ギフトオンラインショップ
(<https://zenrakuren.stores.jp/>)



取扱上のご注意

1. 配送地区に制限のある場合もありますので、ご確認ください。なお、離島につきましては原則として配達できませんので、予めご了承ください。
2. お申込後のご返品、お取り消し（お届け先様ご不在、ご移転ご転居、受け取り拒否等による）扱いはいたしませんので予めご承知おきください。
3. お届け先様のご不在における取扱は、配送業者の取扱規定により対応します。
4. 掲載商品の価格には消費税及び配送料が含まれております。
5. 詰合せ内容・商品デザイン及び配列については、お断りなく一部変更する場合があります。
6. 商品は十分にご用意しておりますが、在庫がなくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。
7. **冷凍** **冷蔵** マークの付いている商品はそれぞれ冷凍、冷蔵でのお届けになります。
8. **簡易** **全** マークの付いている商品はそれぞれ簡易包装、全包装となります。また、表示のない商品には包装はありません。（簡易包装とは、包装紙を帯状に商品に巻きつけた包装形態のことです。）
9. **短冊** **短** マークの付いている商品はそれぞれ普通サイズ、短冊サイズの熨斗となります。
10. **冬入可** マークの付いている商品は熨斗の表書きにご指定の文字が入られます。商品によりスペースが異なり、全ての文字を入れられないこともございます。ご了承ください。
11. **お歳暮** マークの付いている商品は熨斗の表書きがお歳暮のみとなります。

全国酪農業協同組合連合会

●本所 酪農部
●札幌支所
●仙台支所
●名古屋支所
●大阪支所
●福岡支所

〒151-0053
〒060-0003
〒980-0014
〒460-0008
〒532-0011
〒812-0016

東京都渋谷区代々木 1-37-2 酪農会館
札幌市中央区北 3 条西 7-1 酪農センター
仙台市青葉区本町 2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8F
名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル 3F
大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル 6F
福岡市博多区博多駅南 1-2-15 事務機ビル 7F

TEL 03-5931-8008
TEL 011-241-0765
TEL 022-221-5381
TEL 052-209-5611
TEL 06-6305-4196
TEL 092-432-2121

FAX 03-5931-8025
FAX 011-241-0769
FAX 022-221-5384
FAX 052-209-5614
FAX 06-6305-4899
FAX 092-431-6313

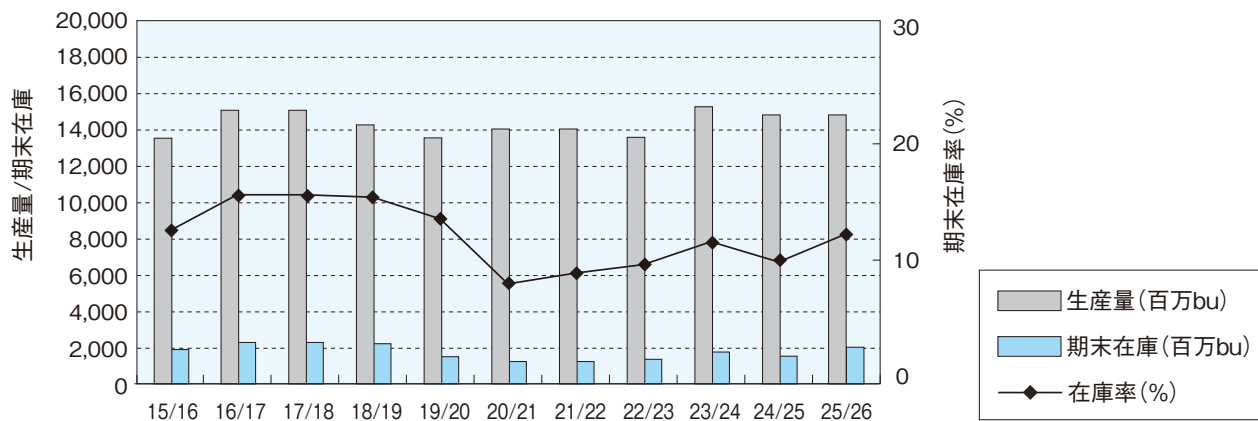


原料情勢

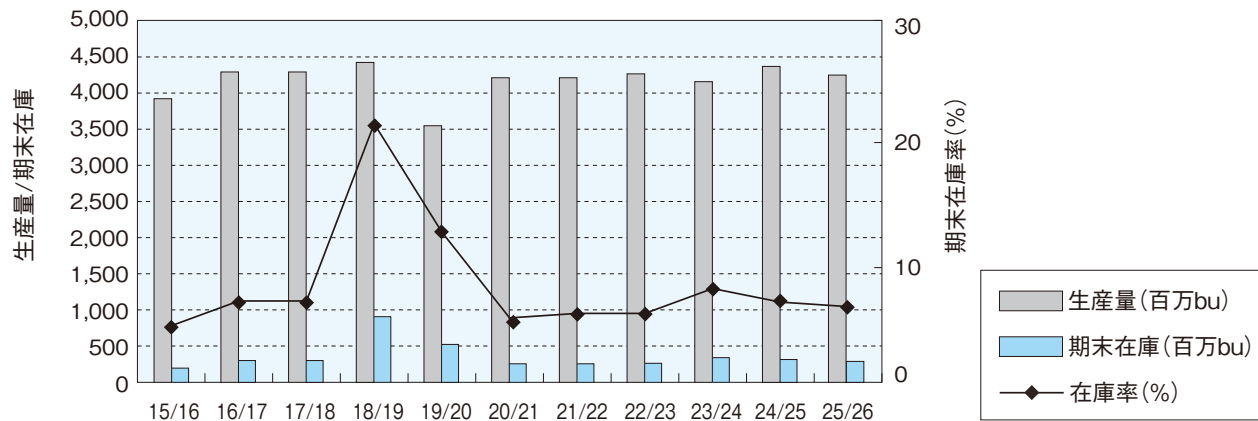
令和7年 12月

12月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		24/25年産	25/26年産
	作付面積 (百万エーカー)	90.9	98.7
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	179.3	186.0
	生 産 量 (ブッシェル)	166億7,700万	183億900万
	需 要 量 (ブッシェル)	151億4,500万	162億8,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	15億3,200万	20億2,900万
	在 庫 率	10.12%	12.46%
トウモロコシ 相場動向	新穀の輸出需要が上方修正され、期末在庫見通しが事前予想より減ったため、シカゴ定期は値を上げて推移している。今後については世界在庫が潤沢であるため急騰する様な状況には無いと思われるが、次回以降の需給予想で単収が切り下げられる可能性もあり注視する必要がある。		
大豆粕 相場動向	米中貿易合意等の影響から暴騰していた大豆粕相場は、今回の需給発表で大豆の期末在庫は据え置かれたが、調整が入り値を下げている。しかし、それまでの上げ幅が非常に大きく、為替円安も重なり大豆粕価格は前期対比で極めて大きな値上げとなっている。		
糖 類	【一般フスマ】 麺類の需要増加やインバウンド等の影響で発生は堅調に推移する見通し。需要についても安定している。このため需給は安定しており、受渡は問題ないと思われる。		
	【グルテンフィード】 10月から値上げになったが、地域によっては引き続き需要が強いためタイトな状況は変わらずとなっているが、一部地域では引取の減少が見られる。また、遠隔地は輸入玉が入船する見込で受渡で大きな混乱はないと思われる。		
海上運賃	中国向け大豆の継続的な買付やアジア向け石炭の活発な荷動きから堅調に推移している。クリスマス休暇前に駆け込み需要が増加する可能性もあり、更なる上げに警戒が必要。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和7年12月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸を中心とする航路では、年末商戦に向けた貨物の増加や船腹スペースの減少により滞船が発生し、本船スケジュールに乱れが生じています。11月下旬にロサンゼルス港停泊中の本船にて火災が発生した影響により、一部の貨物がスケジュールに間に合わず、船積の遅延も発生しています。また11月上旬の台風の影響で東南アジア周辺の港で作業が遅れていることや、年末に向けて中国の主要港で船腹予約も増加していることもあり、船腹スペースは逼迫しており遅延に拍車を掛けています。10月30日に韓国で行われた米中貿易協議では、追加関税停止措置を2026年11月10日まで延長することで合意しました。この措置により、短期的な運賃上昇は抑制される見込みで、2026年は貨物量に一定の動きが出てくる可能性があります。米中対立による世界市場の混乱は一時的に落ち着きを見せつつありますが、交渉の行方次第では駆け込み需要や市場の混乱が再び起きることが懸念されているため、注視が必要です。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、25年産の収穫作業が終了しています。25年産を振り返ると、1番刈は春先の生育に適した冷涼な気候や好天に恵まれましたが、収穫期に降雨被害が発生したことで、上級品の発生は限定的となりました。2番刈については、好天に恵まれたことにより色目が良好な上級品の発生が中心となりました。3～4番刈は降雨被害や山火事による煙の影響を受け中～低級品が多く収穫されました。</p> <p>【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは25年産の収穫作業が終了しています。25年産を振り返ると、1～3番刈の収穫期に降雨が発生したことで、一部の圃場で雨あたりの被害がありましたが、降雨を避けて収穫した圃場では中級品中心、降雨被害前に収穫を終えた圃場では上級品が中心となりました。同州中部クリスマスバレーでも25年産の生産を終えています。例年、7月上旬には1番刈の収穫作業が終了しますが、今シーズンは降雨の影響もあり、7月中～下旬まで収穫が続きました。全体を通して収穫時期に局地的な降雨や暴風雨があったことから上級品の発生は限定的となりました。</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、DIP（休耕地政策）を行っていない圃場で収穫作業が続いています。現在までの収穫を振り返ると、1番刈は昨年のDIPの影響で、枯れきった茎が混入した圃場もありましたが、色目が綺麗な高成分な品質が多く収穫され、主に中東や米国内酪農家向けに出荷されました。1番刈以降については、気温や湿度の上昇に伴い、成分値が下がり始めたことで、茎が細い過乾燥なサマーヘイの発生が中心となりました。灌漑局の発表によると、11月15日時点でのアルファルファの作付面積は154,926エーカーとなっており、前年同期の149,964エーカーからやや増加しています。</p>
米国産チモシー	主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは25年産の収穫作業が終了しています。1番刈は上級品の発生が中心となり、中～低級品の発生は限定的となりました。2番刈についても天候に恵まれたことで、上級品の発生が中心となりましたが、収穫が進むにつれ降雨も発生し、中～低級品も発生しました。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、25年産の収穫作業が終了しています。一部の輸出業者が保有していた旧穀在庫も解消されたことにより、25年産の作付面積は増加しましたが、産地相場の低迷が続き、生産農家の作付意欲が低下したため、2番刈を行わず1番刈で収穫を終了し、秋野菜の生産に備える圃場が多く見られました。収穫された1番刈は好天に恵まれたため、上～中級品の発生が中心となりました。2番刈については夏のモンスーン（季節風）による降雨もあり、影響を受けた牧草は輸出向けには適さないため、米国内向けに出荷されました。灌漑局によると、11月15日時点でのスーダングラスの作付面積は6,423エーカーで、前年同期の1,233エーカーから増加しています。
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、25年産の収穫作業が終了しています。昨年のDIPの影響により、雑草が混入した中～低級品も一部の圃場で発生しましたが、年間を通して、葉付きが良く、色目が綺麗な上級品が多く収穫されました。DIP終了後に収穫された圃場では、茎が固く茶葉が多い低級品の発生が中心となりました。26年産でも継続してDIPが実施される見込みのため、作付面積はやや増加し、生産量は減少すると予想されています。灌漑局の発表によると、2025年11月15日時点でのクレイングラスの作付面積は25,021エーカーとなっており、前年同期の22,834エーカーから増加しています。</p>
豪州産 オーツハイ・ ウィートストロー	<p>【西豪州】 西豪州の収穫作業は終了しています。収穫作業中に降雨の影響を受けた圃場もあり低級品の発生もありますが、生育期間中の好天や適度な降雨に恵まれたことにより、上級品～中級品の中心となっています。ウィートストローについては収穫作業が中盤を迎えています。</p> <p>【南豪州】 南豪州の収穫作業は終了しています。昨年は干ばつの影響を受け、輸出向けに適さない品質が大半となりました。今年は適度な降雨もあり順調に生育が進んでおりましたが、収穫終盤に降雨があり、中級品が発生しています。降雨を逃れた収穫の前半では見た目が綺麗で分析値が高い品質も多く収穫されています。収量については昨年対比で大幅に増加しましたが、例年と比較するとやや下回っています。</p> <p>【東豪州】 例年では収穫作業が終了している時期ですが、断続的な降雨の影響で、収穫作業が遅れています。収穫期序盤の降雨を逃れた圃場では見た目が綺麗な上級品が発生していますが、現在も収穫出来ていない圃場については輸出向けに適さない低級品となる見通しです。今後も断続的に降雨予報も出ており、豪州国内の酪農家からの需要も堅調に推移しているため動向には注視が必要です。</p> <div></div> <p>▲ 左: 25年産オーツハイ上級品: 西豪州 右: 25年産オーツハイ低級品: 南豪州 (11月下旬・豪州にて撮影)</p>

※粗飼料情勢の全文は弊会ホームページに掲載しています。



乳牛産地情報

令和8年1月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▲……やや弱含み ▼……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	23~33	▲	札幌管内における12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内が月計96.2%・累計100.4%、苫小牧管内が月計96.1%・累計99.0%となっております。1月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は3月~4月中旬が中心となります。貴重な春分娩となることから、当該分娩時期の取引が主流となり、庭先購買価格は強含みで推移すると見込まれます。出回り資源については、雌雄選別腹およびF1腹ともに確保可能な状況にあり、両者の価格差は大きくありません。当管内は高能力牛の出回りが多い地域であるため、高能力・高成績牛の情報につきましては、都府県支所を通じてご紹介いたします。ご興味のある牛がございましたら、ご注文くださいますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	▲	
	経産牛	35~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~38	▲	根釧管内における12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内が月計100.8%・累計102.8%、中標津管内が月計99.3%・累計100.8%となっております。1月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は3月~4月中旬が中心となります。春分娩需要が見込まれることから、相場は強含みで推移すると予想されます。出回り資源については、雌雄選別腹およびF1腹ともに確保可能な状況ですが、荷動きは早い傾向にあります。育成牛につきましては、春分娩が期待できる生まれ月の牛が出回り始めることから、相場はやや強含みで推移すると見込まれます。経産牛につきましては、即戦力としての引き合いが引き続き堅調であることから、相場は横ばいで推移すると予想されます。
	初妊牛	65~75	▲	
	経産牛	35~45	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	28~38	▲	帯広管内における12月中旬までの生乳生産量前年比は、月計100.7%・累計102.6%となっております。1月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は3月~4月中旬が中心となります。道外需要の増加に加え、道内需要も引き続き見込まれることから、貴重な春分娩が取引の主流となり、相場は堅調に推移する見込みです。腹別の出回り資源については、雌雄選別腹およびF1腹ともに確保可能ですが、地域ごとに偏りが見られます。育成牛につきましては、貴重な春生まれの出回りとなるため、底堅い相場展開が見込まれます。経産牛につきましては、以前から道内での引き合いが極めて強く、相場は引き続き高値で推移すると見込まれます。
	初妊牛	65~75	▲	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	道北管内における12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内が月計102.5%・累計101.2%、北見管内が月計100.5%・累計101.6%となっております。1月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は3月~4月中旬が中心となり、春分娩牛が出回り始めます。道北管内では前年7月の平均気温が観測史上最高を記録したことによる暑熱の影響が顕著に現れると予想され、例年に比べ春分娩牛の出回りは少なくなる見込みです。このため、相場は強含みで推移すると見込まれます。経産牛につきましては、乳価上昇を背景に、秋口にかけて即戦力牛への需要が高まると予想され、価格は堅調に推移し、強含みの展開となる見通しです。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	35~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~38	▲	道内全体における12月中旬までの生乳生産量前年比は、月計100.2%・累計101.7%となっております。1月の初妊牛の動向につきましては、年明け以降の道内需要増加および春分娩腹の出回りにより、引き合いは強まると見込まれ、庭先相場も強含みで推移すると予想されます。長命連産への取り組みが進んでいることから、出回り頭数は地域によっては貴重なものとなる見込みです。育成牛につきましても、春生まれの牛は希少性が高く、引き合いは強まると見込まれます。庭先購買においては、市場に出回る前の資源を確保できるメリットがございます。搾乳素牛の導入計画がございましたら、お早めにご注文くださいますようお願いいたします。本年が皆様にとって幸多き一年となりますことをお祈り申し上げますとともに、本年も引き続き全酪連畜産事業をご利用賜いますよう、よろしく願い申し上げます。
	初妊牛	65~75	▲	
	経産牛	35~45	→	

お詫びと訂正

本紙12月号(No.723)13ページに掲載しました酪農業に対する理解醸成活動報告1三重県で行われました『モーモースクール』の開催場所に誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

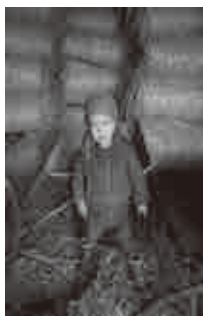
<誤> 場所: 昭和町立下御糸小学校



<正> 場所: 明和町立下御糸小学校

今月の表紙

今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「今日も頑張るぞ」(長崎県 久野はる氏 撮影)です。



編集後記

- あけましておめでとうございます。
皆様には、晴れやかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。
午年は、陽気さや前進・飛躍を象徴する年とされるようです。酪農業界にとっても、力強く歩みを進められる1年となることを願っています。
全酪連会報も、皆様により親しんでいただける紙面づくりに努めてまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和8年1月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 1月号 No.724

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



はじめてのませたミルク

那須塩原市立青木小学校 3年（関甲信） 小針花架

今月の入賞作品は…

那須塩原市立青木小学校 3年（関甲信）の小針花架さんの作品です。

生まれて間もない子どもの牛さんに初めてミルクを飲ませた場面を、伸びやかな線と明るい色調で表現した作品です。夢中でミルクを頬張る牛さんとにこやかな表情の女の子が微笑ましい作品を生み出しました。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議